

【ご案内】水道障害（凍結・破裂・損傷等）の予防対策等について

拝啓

厳寒の候、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、弊社のガスを安全にご利用いただき誠にありがとうございます。

ご承知の通り、九州地方は強い寒気の影響を受け、気温低下や積雪等も見受けられる季節になって参りました。万一お客様宅の水道管が凍結し水（お湯）が出なくなったり、破損・損傷に伴う断水等のトラブルが生じる事も予測されます。つきましては、この様な状況を少しでも回避していただくための対処方法について、簡単ではございますが下記にご案内させていただきますので、ご一読・ご活用下さい。

敬具

✓ 水道管や水道メーターボックスの保温を

水道管の凍結の防止には、保温が一番です。屋外に露出している水道管の保温には、保温チューブや布を巻くのが効果的です。水道メーターボックス内は、発砲スチロールや新聞紙などを入れ、保温されてみてください。



✓ 水の汲み置きを

夜中から朝方にかけて水道管が凍結し、水（お湯）が出なくなることがあります。出来ましたら事前に“水の汲み置き”をしておいてください。



✓ 水道管の凍結や破損事故の応急処置の対処方法について

水道管の凍結により水（お湯）が出なくなっても、日中気温が上昇すれば元どおりに水（お湯）は出るようになります。どうしても水（お湯）が必要な場合は、水道管にタオルをかけ、その上からぬるま湯をゆっくりとかけて溶かし、その後、タオルの水分をしっかりと拭き取った後に使い捨てカイロ等を管に巻きつけ凍結を溶かしてください。但し、ぬるま湯ではなく熱い湯をかけると水道管が破裂する恐れがありますので、十分注意されて下さい。万一、水道管が破裂したときは、水道メーターボックス内の元栓（バルブ）を閉め、破裂した箇所へ布やテープをしっかりと巻きつけて応急処置を施されて下さい。その後、弊社もしくは、最寄りの水道工事業者様へ修理を依頼されて下さい。但し、修理費用は有料になります。又、水道工事業者様に心当たりがない場合は、弊社からもご紹介させていただきます。

ぬるま湯をゆっくりかける
熱湯はダメ！



✓ 万一、水道管が凍結してしまった場合は

万一、凍結して水（お湯）が出なくなってしまった場合は、無理に蛇口をひねって水（お湯）をだそうとしないでください。故障（ゴムパッキンの損傷）に繋がる可能性があります。